

令和 7 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

◆志の高いリーダーを育成する学校
「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校
○めざす学校像を示す 4 つのキーワード
1 「心を鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
2 「知を究める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
3 「人と繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
4 「将来を描く」…将来にわたる社会との繋がり方を描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

2 中期的目標

1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する
(1) 学力定着・向上に向けての取組みの推進
ア 「模試振り返りシート」・「ポートフォリオ」を活用した P D C A サイクルによる学力の向上
イ 基礎学力調査や教育産業による学力分析システムで生徒自身が学力定着度を確認するための生徒 1 人 1 台端末の活用
ウ 「個別最適化」への対応の観点を踏まえた講習の実施や学習アプリなどの活用
* 2 年次第 1 回「学力実態調査」における国数英 GTZ「A2」以上。[R4 :A3 R5 :A3 R6 :A3 →R9 : A2]
(2) 教員の授業力の向上
ア 授業力向上プロジェクトチーム (JKP) の先導による「主体的・対話的で深い学び」の推進と、それに伴う思考力・判断力・表現力の育成
イ 生徒による授業評価の活用。教員の公開授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部への授業公開。
ウ ICT 機器の効果的活用による授業の質的変容と、生徒の授業参加への主体性向上
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :94.0 R5 :96.6% R6 :96.7% → R9 :90%超維持)
(3) 「DX ハイスクール」等としての取組みの推進及び、「普通科改革」の動向を踏まえたカリキュラム研究
ア DX ハイスクール推進に向けて組織体制の確立及び教員研修・学習会の実施、並びに「探究」を軸とした高大連携の深化、企業等社会資源の活用推進
イ「学際領域に関する学科」や「地域社会に関する学科」等の普通科改革についての研究
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :74% R5 :90.6% R6 :88.8% → R9 :90%超維持)
2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす
(1) 生徒自身で掲げた「進取果敢」のスローガンのもと、自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実
ア 職業調べや探究活動を通じた、将来の進路や生き方について考える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :83.4% R5 :86.9% R6 :90.0% → R9 :85%超維持)
イ 自らの将来像を描くうえでの外部人材の活用と、大学等への訪問企画の充実
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :85.3% R5 :67.3% R6 76.3 :% → R9 :80%超)
(2) チーム泉陽による進路指導体制の確立
ア 本校進路指導の全体構想「泉陽キャリアグランドデザイン (CGD)」に基づく 3 年間を見通した取組みの推進
* 教員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :96.0% R5 :94.9% R6 :98.4% → R9 :90%超維持)
イ 教育産業と連携した模試・学力実態調査の実施及び、その結果分析に基づく教科ごとの対応・取組の推進
ウ 進路指導における統合 ICT を活用した情報共有化の推進
* 生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上
(R4 :生徒 87.0%・保護者 85.6% R5 :生徒 91.3%・保護者 89.0% R6 :生徒 93.8%・保護者 93.2%→ R9 :90%超)
* 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合の維持 (R4 :35.0% R5 :35.1% R6 :37.4%→ R9 :40%超)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる
(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の育成
ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障
* 部活動加入率 90%超の維持 (1 年次) (R4 :93.1% R5 :94.7% R6 :97.2%→ R9 :90%超維持)
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :76.7% R5 :75.2% R6 :73.5%→ R9 :80%超)
イ 生徒会活動の活性化による「自主的な学校行事」の促進
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の維持 (R4 :96.4% R5 :97.0% R6 :98.6%→ R9 :90%超維持)
ウ 堺市堺区や堺警察と連携した清掃活動・ボランティア活動の推進と 1 部活動 1 ボランティア運動の実施
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :84.9% R5 :85.6% R6 :92.0%→ R9 :80%超維持)
(2) 連続性ある人権教育と日常的な生徒指導の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成
ア 人権教育推進委員会を軸に作成した人権教育計画に基づく、3 年間の教育活動全体を通じた人権感覚の醸成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :88.7% R5 :90.1% R6 :93.5%→ R9 :90%超)
イ 学習活動の基盤となる基本的生活習慣の確立と、挨拶等を含めた社会的マナーの涵養
* 遅刻数 (1 クラス当たり) の前年度比減 (R4 :110 回 R5 :149 回 R6 :89 回→ R9 :50 回以下)
ウ 多様性を育み、論理的に物事を考え、自分の考えを的確に伝える力の育成
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :70.8% R5 :70.0% R6 :80.4%→ R9 :80%超)
(3) 第 4 次大阪府子ども読書活動推進計画に基づく読書活動の推進と幅広い教養の育成
ア 朝読やビブリオバトル、リーディングマラソン、百人一首大会、「青春の短歌大会」などの取組み及び、生徒図書委員会の活性化による読書習慣の確立
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :49.4% R5 :39.0% R6 :33.7%→ R9 :50%超)
(4) 国際交流の推進による異文化理解の深化と国際的視野の拡張
ア 海外研修の継続・発展及び、海外の学校と姉妹校提携への取組み推進
イ 文部科学省による「トビタテ！留学 JAPAN」や「AIG 高校生外交官プログラム」などへの応募推奨
* 語学研修への参加者数の安定的維持及び、海外の学校との交流の深化 (H30:35 名 R5 :53 名 R6 :32 名→ R9 :35 名程度)
4 チーム泉陽として課題解決にあたる教職員集団をつくる
(1) 学校の教育課題に対して情報共有を図り、全教職員で取り組む組織文化の醸成
* 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :66.0% R5 :76.3% R6 :70.5%→ R9 :80%超)
(2) 教育相談・生徒支援体制の整備及び、SC・SSW 等の人材活用による外部機関との連携体制の確立
* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上 (R4 :67.5% R5 :80.9% R6 :84.7%→ R9 :80%超維持)
(3) 見直しによる業務の削減及び、効率化と平準化の推進
* 時間外勤務時間の減少と、月 80 時間以上の解消。(R4 :35 時間 53 分 R5 :32 時間 10 分 R6 :30 時間 14 分→ R9 :28 時間未満)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 6 年度値]	自己評価
1 育成する グローバル社会を生き抜く高い学力を	(1)学力定着・向上 (2)教員の授業力の向上 (3)DXHS 等としての取組み推進	(1)「個別最適化」に向けての具体的取組みを検討する。 (2)ア 授業力向上 PT の取組みをもとに、「主体的・対話的で深い学び」を授業で実践する。 イ 授業アンケートの振り返りシートを活かし、自らの授業改善をめざす。 ウ ICT 部が中心となる研修を継続・発展させ、生徒の主体性を引き出すべく ICT 機器を活用する。 (3)ア DX 事業で環境を整備し、昨年度からの多様な探究活動を深化発展させる。 イ 普通科改革を進める先進校に学ぶ。	(1)2 年次「第 1 回学力生活実態調査」における国数 GTZ「A2」以上。[A3] (2)ア 生徒向け自己診断「分かりやすく興味が持てる授業が多い」の肯定率 80%以上維持。 [83.8%] イ 教員向け自己診断「教材や教え方に様々な工夫をしている」の肯定率 90%以上維持。 [100%] ウ 生徒向け自己診断「ICT 機器の使用は効果的」の肯定率 90%以上。[90.6%] (3)ア 生徒向け自己診断「『総合的な探究』などの学習活動によって、思考力、情報収集力、発表力が身につく」を前年度より上げる。 [80.4%] イ 先進校視察の継続実施。[1 校]	
2 生徒の進路実現をめざす 高い志をはぐくみ、すべての	(1)モチベーションの高揚を図る (2)チーム泉陽による進路指導体制の確立	(1)ア 学部・学科調べ、職業調べ、大学説明会や大学訪問、卒業生の講話などを通して、高い志を育む。 (2)ア 本校の進路指導方針である「泉陽 CGD」の共通認識を図る。 イ 学年ごとに模試結果についての学力分析会を実施し、その分析結果を踏まえ、教科としての対応・取組みを明確化する。	(1)ア 生徒向け自己診断「本校の進路指導は進路を選択する上で役立つ」の肯定率 85%以上維持。[90.0%] (2)アイ・教員向け自己診断「進路指導は適切に行われている」の肯定率 90%以上維持。 [98.4%] ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合を 40%程度に。[37.4%] ・自己診断「学校は進路 HR など進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率 85%以上。[生徒 93.8%、保護者 93.2%]	
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1)協力協働の社会的精神の育成 (2)社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成 (3)読書活動の推進と幅広い教養の育成 (4)異文化理解の深化と国際的視野の拡張	(1)ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動で学習との両立をめざす。 イ 「自主的な学校行事」はもとより、制服や校則なども含め学校生活に対する生徒の自主的関与をさらに深める取組みを促進する。 ウ 堺市堺区や堺警察と連携し、生徒会や部活動ごとのボランティア活動や清掃活動を推進する。 (2)ア 人権教育推進委員会を核に、3 年間を見通した人権教育計画を策定する。 (3)ア 朝読やビブリオバトル、リーディングマラソン、百人一首大会、「青春の短歌大会」などの取組みを活性化させ、読書習慣につなぐとともに幅広い教養の育成をめざす。 (4)ア 海外語学研修等を継続・発展させるとともに、姉妹校提携に向けての取組みを進める。 イ 「AIG 高校生外交官プログラム」等への応募を推奨する。	(1)ア 生徒向け自己診断「部活動と勉強の両立ができている」の肯定率 75%以上。 [73.5%] イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」の肯定率 90%以上維持。[98.6%] ウ 生徒向け自己診断「社会に役立つ有為な人材を育成しようとしている」の肯定率 85%以上維持。[92.0%] (2)ア 生徒向け自己診断「学校の人権教育は適切」の肯定率 85%以上維持。[93.5%] (3)ア 生徒向け自己診断「読書の習慣がある」の肯定率 40%以上。[33.7%] (4)アイ 語学研修等への参加者数を 35 名程度で一定維持する。 [32 名]	
4 教職員集団をつくる チーム泉陽として課題解決にあたる	(1)全教職員で取り組む組織文化の醸成 (2)教育相談体制の整備と外部機関との連携 (3)業務の削減・効率化・平準化の推進	(1)ア 各組織や会議における取組状況について、学校掲示板の活用により情報共有を推進する。 イ 既存組織では扱い難い全校的な学校課題について、機動的に検討会議等を開催し対応する。 (2)ア 教育相談・生徒支援体制を強固にし、SC・SSW 等の外部人材の活用を図る。 イ ホームページやブログ記事、進路ニュース、保健だよりなど各種文書の配信によって学校の状況を保護者等に届け、生徒支援に繋げる。また、発信ツールとしての SNS の活用について検討する。 (3)ア 各分掌等におけるルーティン業務を見直し、削減・効率化を図る。 イ 学校部活動方針（休養日等）及び全校一斉退庁日の遵守を推進し、教職員の時間外在校時間の縮減を図る。	(1)アイ 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」の肯定率 80%以上。[70.5%] (2)ア 生徒向け自己診断「困りごとや相談に親身になって対応してくれる教員がいる」の肯定率 80%以上維持。[84.7%] イ・保護者向け自己診断「生徒の健康に関する情報提供」の肯定率 85%以上維持。 [86.4%] ・保護者向け自己診断「学校は情報をよく提供している」の肯定率 85%以上維持。 [98.6%] (3)アイ・教職員の時間外勤務時間を前年度より 5 %以上減少させる。[30 時間 14 分] ・時間外勤務月 80 時間以上の職員を前年度より減少させる。[延べ 15 人]	